

# ブダペスト通信

盛田 常夫



2022年 NO. 16

3月28日

小林陵侑、快挙達成

—スキージャンプ W 杯二度目の総合優勝

2021-2022年スキージャンプ W 杯で、小林陵侑が二度目の総合優勝を果たした。日本人選手で W 杯総合優勝した選手は小林のみで、しかも 2 度の総合優勝は W 杯史上 12 人目の快挙である。今シーズンはジャンプ週間でも 2 度目の総合優勝を果たし、あわや史上初の 2 度目のグランドスラム（4 戦全勝）を達成するところだった。さらに、北京五輪のノーマルヒルで金メダルを取り、ジャンプ週間総合優勝、北京五輪金メダル、W 杯総合優勝の三冠を達成した。



W杯総合優勝の小林陵侷（W杯の部門総合優勝者に授与されるクリスタルグローブを片手に）。左がガイゲル（ドイツ）、右がリンドヴィック（ノルウェー）：FIS（国際スキー連盟）HPより

2021年11月末に始まった今シーズンのスキージャンプW杯は3月27日の個人戦第28戦プラニツァ・スキーフライング大会で幕を閉じた。日本選手はほぼ4ヶ月にわたって、北京五輪を挟んで、ロシアと欧州の会場を転戦した。札幌大倉山でのW杯が中止になったために、一度も日本へ戻ることなく、ホテル住まいを続けてきた。欧州の選手たちが母国開催に合わせて、自宅で休養できたのとは大違いである。その所為か、W杯終盤の得意なはずのスキーフライング大会（世界選手権とその後の4戦）で、小林は上位に食い込めなかった。スキーフライングのタイトルを取っていれば、完全優勝のシーズンだったが。

今シーズンの小林のW杯の総得点は1621点である。W杯は競技ごとに1位100点、2位80点、3位60点、4位50点、5位45点、6位40点、7位36点、8位32点、9位29点、10位26点と漸減し、16位15点から30位の1点まで1点刻みになっている。上位に入らなければ、得点を重ねることが難しい得点システムである。

最後はやや息切れしたが、4ヶ月にわたって、小林は調子を大きく崩すことがなかった。スキージャンプは不確定要素が多く、上位選手でもそれなりの確率で失敗ジャンプを犯す。予選落ち（得点ゼロ）や、20位以下の下位に沈むこともある。ところが、今シーズンの小林には完全な失敗ジャンプが一度もなかった。小林のW杯の得点1621ポイントを試合数で割ると平均得点ができる。スーツ違反とコロナ陽性で個人戦3戦に参加できなかったため、小林の参戦数は25戦である。獲得ポイントを25で割ると1戦当たりの獲得ポイントは64.84となる。この数字は、小林が参加した大会で平均3位以上を確保していたことを意味する。まさにこの数値が示すように、今シーズンの小林は総合優勝するに相応しい成績を残していたことが分かる。

なお、ジャンプ週間は第二次世界大戦から間もなく始まりすでに70年の歴史をもつが、現在のようなW杯ジャンプが始まったのは1979/80年からのシーズンである。今シーズンの小林は全28戦中8戦で優勝し、W杯通算27勝を達成した。これはW杯歴代8位の記録で、来シーズンでさらにこの記録が伸びて、レジェンドの仲間入りすることが期待される。なお、男子の記録はオーストリアのシュリーレンツァウアーの53勝で、これを破るのは難しいだろう。なお、女子の高梨沙羅選手は63勝でダントツの記録だが、W杯女子ジャンプは2011/12のシーズンから始まり、まだ歴史が浅い。W杯女子ジャンプの黎明期に圧倒的な強さを発揮した高梨選手が連戦連勝で勝利を積み重ねてきた結果である。日本では男子より女子の大会がTV放映されるが、欧州では女子の大会がTV放映されることは稀で、男子の大会中心にTV放映されている。

総合ポイントだけでなく、獲得賞金額も史上最高額になった。W杯の1ポイントは100スイスフラン（CHF）に換算されるので、総合ポイントで小林が獲得した賞金は $1621 \times 100 = 162,100$ CHFになる。さらに、今シーズンのジャンプ週間は70周年を記念して、総合優勝賞金が10万CHF（およそ1300万円）に引き上げられ、これをゲットした。さらに各大会の予選優勝者に与えられる賞金3000CHFを何度か獲得しているので、すべてを合わせると、総額で306,400CHF（およそ4000万円）を獲得した。2位のガイゲルは193,100CHF、3位のクラフト（オーストリア）が176,400CHFだった。小林はダントツで賞金王にも輝いた。クラフトは総合順位では5位に終わったが、北欧シリーズで優勝した賞金とフライング大会の賞金で、賞金順位はW杯総合順位より2つ上がった。

一つだけ苦言すれば、小林選手には優勝者のインタビューに通訳が必要なことだ。他の選手は通訳なしで、英語で受け答えしている。誰もが流暢な英語を話しているわけではない。しかし、とにかく通訳なしで受け答えしている。大方、質問は2つか3つ程度で終わる。フリースタイルスキーの日本人選手はたどたどしい英語ながら、通訳なしでインタビューに答えている。スキージャンプ会場は都市から離れているので、スキー場近くで日本語通訳を見つけるのは難しい。しかも、優勝するかどうか分からないのに、主催者が事前に通訳を手配するのには無理がある。小林選手の様子を見ると、英語の質問は理解しているようなので、後は簡単に答える練習をすれば良いだけのことである。トレーニングの合間に、多少の英会話を勉強してもらいたいものだ。これは付き添いのコーチや連盟が気を付けなければならない点である。

今シーズン、ロシアの若い選手が台頭し、北京五輪の団体混合で銀メダルを獲得した。しかし、ロシアのウクライナ侵略でロシア選手の参加が禁止され、ロシアの第一人者であるクリモフ選手は総合ランキング 34 位で今シーズンを終えた。クリモフ選手は試合中でも積極的にプーチン支持を表明しており、来季の参加は不透明である。スキージャンプ選手は国ごとにナショナルチームで移動しトレーニングしているので、個人と国家を分けることができない。ロシアでの開催が増えた今シーズンのスキージャンプだが、少なくとも来季はロシアで大会は行われまいだろう。